

幼児期におけるリトミックより育まれる能力についての研究

～親子でリトミック体験教室の実践を通して～

A study on the ability to be nurtured by Eurhythmics in infancy

～Through practice for Parents and children to do Eurhythmics～

橋本 知子

要旨

リトミック（ダルクローズ・ユーリズミックス）とは、オーストリアのウィーンに生誕し主にスイスのジュネーブで活躍した音楽教育家のエミール・ジャック＝ダルクローズ（Emile Jaques=Dalcroze 1865-1950）によって考案された音楽教育法である。エミール・ジャック＝ダルクローズは、音楽・身体・生活に共通する要素としてリズムに着目し、音楽と身体の融合を体験することにより自己表現力を豊かにすると提唱した。

エミール・ジャック＝ダルクローズは自身の学び舎であるジュネーブ音楽院にて教鞭をとり、この職にあるとき音楽教育を改革する必要性を痛感し、幼児・児童から学生に至るまでの音楽教育の基礎を拓けるべく、色々な試みを行った。主な教育内容としては、身体のリズム運動を通してリズム感覚の成長を促す、及び音楽を感じ取り表現するために必要な心身の調整能力・集中力・反応力などを高め、偶発性の中で音楽に身体的反応をすることにより、諸感覚機能を高めようとした。¹

本研究では、特に幼児期においてリトミックを通し高められるとされている様々な能力「表現力・集中力・思考力・想像力・即時反応力・身体能力・コミュニケーション力」について着目し、幼児と保護者での親子でリトミック体験から保護者がどのような実感を抱くのかを明らかにする。

キーワード：エミール・ジャック＝ダルクローズ、リトミック、幼児期

1. はじめに

幼稚園・保育所・認定こども園において、乳幼児の健やかな発達を目指す基本として5つの領域からねらい及び内容が定められている。その中で音楽に関連する領域は「表現」となり、内容としては「音楽に親しみ、歌をうたったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう」（幼稚園教育要領）及び「保育士と一緒に歌ったり、手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶ」（保育所保育指針）と示されている。^{II} 領域「表現」は、音楽のみならず造形・身体表現等、幅広く総合的な表現として位置付けられている。

幼児の表現を育てるとは、幼児期の人間形成の基盤づくりを育てるということであり、幼児が自らの力で成長していく本来性を高めるにあたり、大人であるわたしたちとの関わりの中で感性を豊かに育てていく。^{III}

幼児期は心身ともにまだ未分化の状態であり、リトミックを体験するにあたり、幼児の発達段階を踏まえた上で、一人ひとりの個性ある表現を培うための内容と指導法でなければならない。^{IV}

幼児期の日常的な生活の中には、全面発達を促す豊かな経験が必要である。これらの生活経験や体験から得られた感覚や感性は、自己表現を豊かにするための基本的で重要な要素であると考えられる。したがって、幼児期のリトミックは、この日常的な経験活動を素材とした教材による身体表現の体験を通し、豊かな自己表現力へと発展できるような内容と指導法の展開が必要であると考えられる。

故に本研究にて実施した親子でリトミックにおいても、発達段階を十分に考慮するとともに、幼児がのびのびと楽しみながら音楽に合わせて保護者及び他の参加者と一緒に活動ができるよう配慮した。

2. 研究の対象と方法

年少～年長の幼児と保護者を対象とした親子でリトミックを別日で2回実践し、保護者には体験を通しどのような力が育まれると思うかをイメージしながら参加していただく。体験後保護者よりアンケートの回答*をお願いする。内容としては、幼児が興味を示す教材（絵カード・ボール・折り紙・打楽器など）を使用し、音に対する即時反応及び自然や動植物の動きの表現を取り入れ、自ら楽しく活動ができるプログラムとする。また、親子で体験していただく事を考慮し、活動の中で抵抗感なくスキンシップが取れる内容とし、家庭においても日常生活の中で楽しめる簡単なリズム遊びを提示する。

*アンケート回答の倫理的配慮について

本研究にあたり、体験申込み時には文書及び当日には口頭による説明を行い同意書をもって協力いただいた。また、アンケートに回答いただいた個人が研究において特定されないよう配慮した。

◆研究を目的とした実践◆

♪1回目

日時：R6.9/30（土） 13時30分～14時20分

場所：八戸市内ショッピングセンター内ホール

参加者：親子1組（3歳男児とお母様）

社会人1名（勤務先の施設にてリトミックを取り入れた支援を勉強したい旨の申し出を受け入れた）

体験内容

1. 手遊び（ジャンケン/グーチョキパーでなにつくろう）
2. 身体遊び（あたま・かた・ひざポン）
3. 即時反応（音の高低・強弱・テンポの変化を手合わせで体験する）
4. 空間認知（ボールを転がし音価を体感する）
5. 絵を使用した曲の認知（曲を聴き分けて絵を選択する）
6. ステップ（歩く・走る・跳ねる）

体験を通しての所感

親子での参加ではあったが、参加者の男児がとても人見知りをしてしまった為、反応を伺いながら内容を考慮し体験を行った。プログラム1～3まではお母様から離れられずにいたが、4のボール遊びにはとても興味を示し私と対面にて実施することが出来た。このボール遊びを境に5・6においては、私と少し距離を保ちながらも自分のペースでリトミックを楽しんでいる様子が見受けられた。

♪2 回目

日時：R6.10/29（日） 10時～11時

場所：八戸市内新聞社本社内ホール

参加者：親子3組

（年長児男児とお母様/年長児女児とお母様及び姉妹/年中児女児とお母様）

体験内容

- 1, 手遊び（棒が一本）
- 2, 即時反応（音の高低・強弱・音価・テンポの変化を手合わせで体験する）
- 3, 拍子の理解（2・3拍子を聴き分け曲に合わせてボール渡しをする）
- 4, 身体遊び（むすんでひらいての身体表現展開）
～休憩～
- 5, 絵本読み聞かせ（3匹のこぶた）
- 6, 絵本の内容を反映した認知及びステップ（藁は軽い→スキップ/木は重い→歩く/レンガはとても重い→ゆっくり歩く）
- 7, 手遊び（3匹のこぶた）

体験を通しての所感

3組の参加ということで、初めに簡単な自己紹介からスタートし、親子でのリトミックから徐々にこども同士のリトミックへと展開した。体験プログラム前半は家庭にて親子で楽しむことのできる内容とし、後半はリトミックを通して育みたい能力（思考力・想像力・表現力・即時反応力・コミュニケーション力）を意識したプログラムを体験していただいた。特に後半のプログラム6においては、こども同士が自然と手をつないでスキップする様子や重いレンガはどうやって運ぼうかと相談する様子が垣間見えた。

親子でリトミック2回目の実践では、リトミック体験を通してのコミュニケーション力という視点において、親子での触れ合いを楽しむリトミックは勿論のこと、初対面のこども同士であっても活動を共に行うことにより自然と親しくなっていく様子が見受けられた。

3. 結果

～アンケートの回答～

Q1.親子でリトミックのイベントをどちらで知り得ましたか？

広告 (1) 知人より (3) その他 (1)

Q2.お住まいはどちらですか？

八戸市内 (4) 八戸市外 (1)

Q3.リトミックという教育法をご存知でしたか？

知っていた (3) 知らないが聞いたことがある (2) 知らない (0)

Q4.本日の体験から、リトミックを通し育まれると感じた能力を以下より選択

してください。(複数回答可)

表現力 (5) 即時反応力 (4) コミュニケーション力 (3)

集中力 (2) 想像力 (2) 身体能力 (2) 思考力 (2)

Q5.今後同様のイベントがあれば参加されますか？

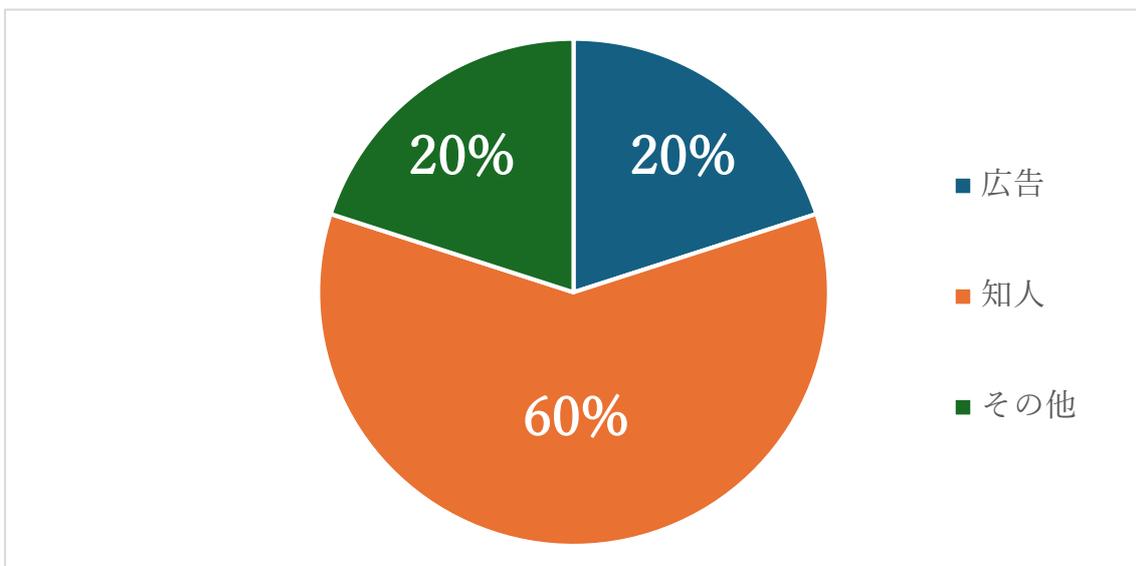
参加したい (4) 参加しない (0) 分からない (1)

Q6.本日の体験についてのご感想をお願い致します（自由記述）

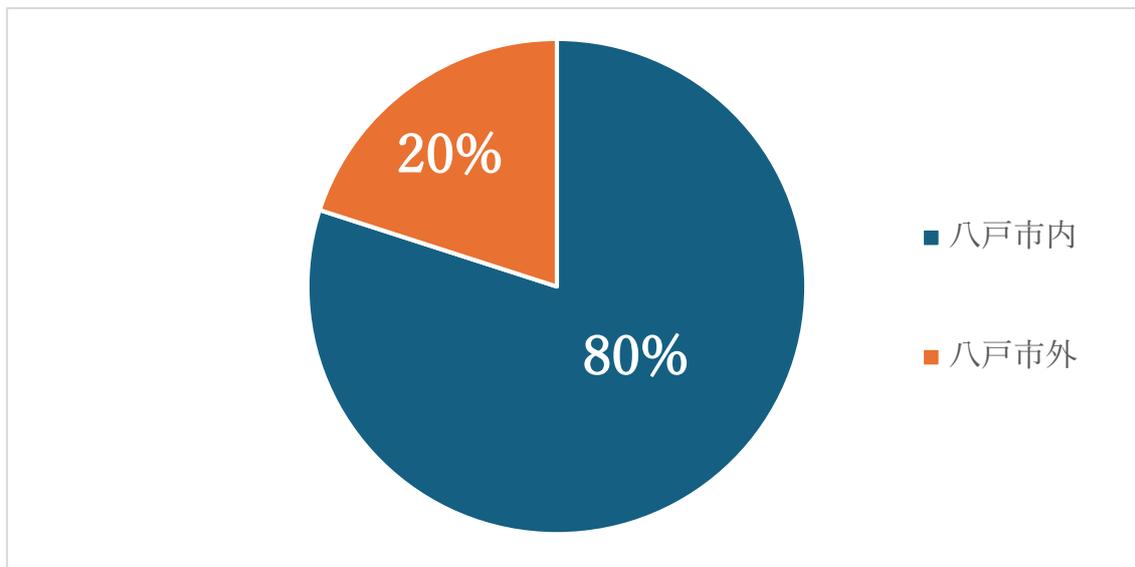
- ・日常生活において、こどもとのコミュニケーション手段のヒントとなった
- ・こどもの成長を確認するきっかけになる
- ・こどものリズム感を確認することができた
- ・正直、初対面の方々と一緒というのに不安があったが、こどもの楽しむ姿を見ることができ、参加して良かった
- ・こどもが知っている曲に反応し、遊んでいる様子がとても楽しそうだった
- ・本日の体験を機に、このようなイベントにどんどん参加させたい
- ・リトミックの魅力をママ友へ伝えたいと思った
- ・ボールを使用してのリトミックが楽しそうだった

回答のグラフ化（アンケート回答者数：5人）

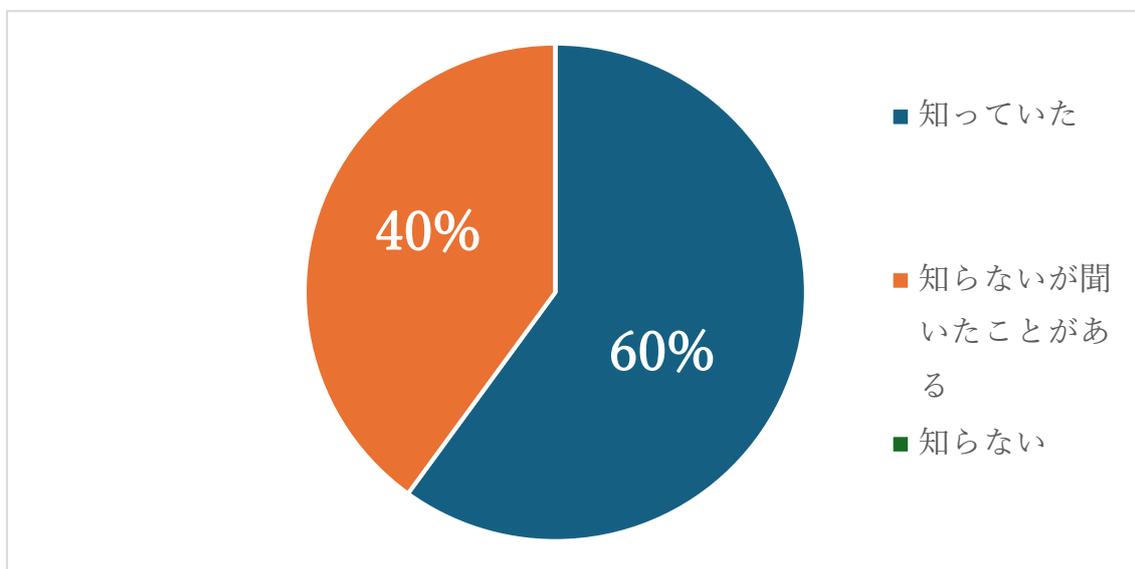
Q1.親子でリトミックのイベントをどちらで知り得ましたか？



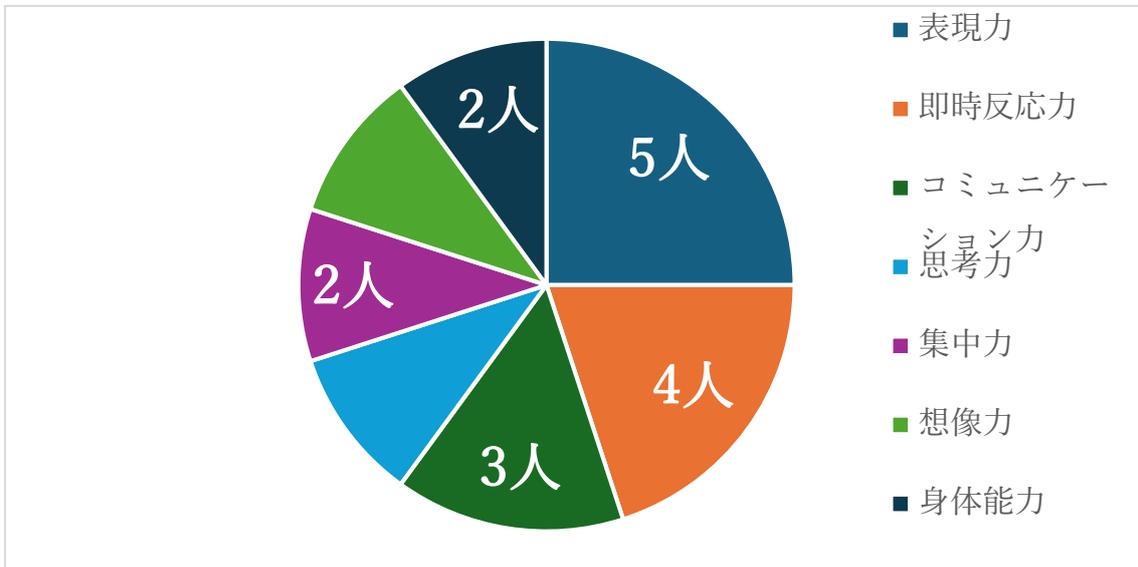
Q2.お住まいはどちらですか？



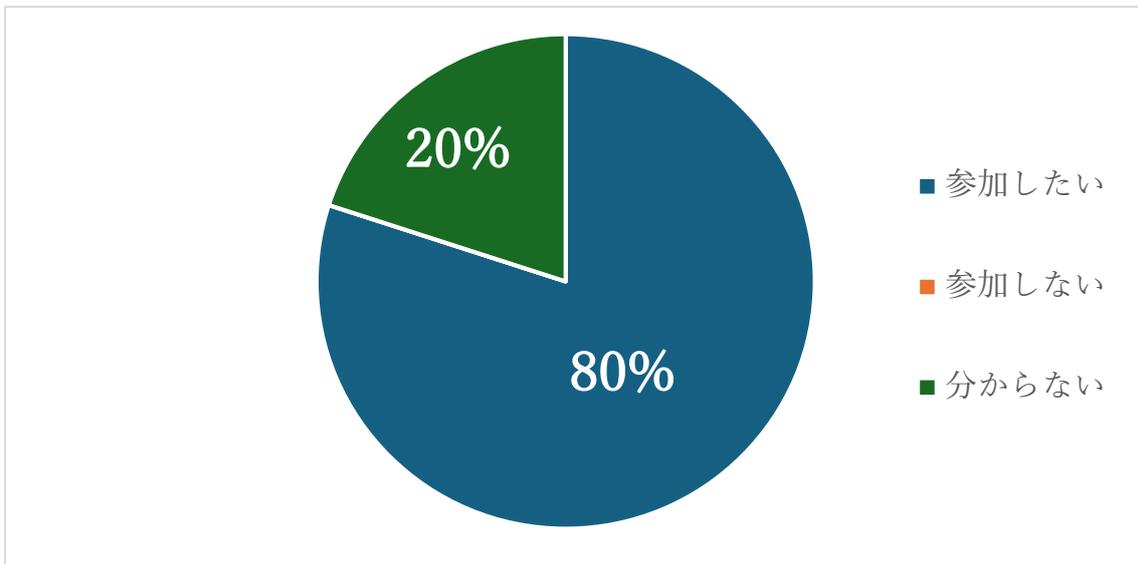
Q3.リトミックという教育法をご存知でしたか？



Q4.本日の体験から、リトミックを通し育まれると感じた能力を以下より選択してください。(複数回答可)



Q5.今後同様のイベントがあれば参加されますか？



4. 考察

本研究を通しての率直な所感として、思いの外体験参加者の応募に苦慮したことから八戸市内及び近郊にお住まいの方々においてリトミックという教育法の認知度及び関心度がまだまだ低いと実感した。しかしながら、親子でこのような体験に参加していただくことで、幼児期におけるリトミックとは具体的にどの様な能力を育むことを目的としているのかを体感いただけたのではないかと考える。

幼児の成長には、保護者のみならず大人との適切な関わりを必要とする。同様に音楽的発達においても、大人と一緒に音楽を楽しむ経験が様々な能力を高めると考える。故に、リトミックは幼児と共に音楽を楽しみ音楽の豊かさを味わい、幼児の成長に寄り添った指導を心掛ける必要があるといえる。

エミール・ジャック＝ダルクローズは、子どもの音楽的能力とその発達への教育方法として、「子どもの音楽的能力は、子ども自身に生来的に拍子感としてリズムの要素をもち、その根源であるリズムを基本とした教育によって、幼児に音楽的感覚を目覚めさせそれを身体的に発達させていく」とし、すべての子どもの音楽的才能を身体の筋肉の動きを通して発達させ、音楽的な表現を豊かにしていこうとした。^Vこの試行を幼児に適用したところ、音大生以上に効果的であることが検証されたといわれている。これらのことから、幼児期におけるリトミックは心身ともに幼児の成長において様々な力を育むことが期待できるのではないかと考えられる。

5. おわりに

動くことは音楽の本質に触れること、即ち身体運動は学習者が音楽をどの様に聴いているのかの心の様子を映し出しているといえる。その体験を通し、幼児は一人の音楽する人となって成長していく。

音楽教育を通し保育に求められるものとして豊かな感性及び表現力が挙げられる。更に、リトミックを体験することにより他者とのコミュニケーション能力を育むことが期待される。現代の子どもたちは、家庭内でのひとり遊びや受動的な遊びが増えている。子どもは成長の過程において、周囲との関わりを通し色々な体験をする中で感動し、その感動が声や言葉や身体の動きとなって表れ、そのことを他者が受けとめ表現を返してくれることにより表現への意欲が育つと考える。

人間の礎となる幼児期において、エミール・ジャック＝ダルクローズの教育理念（豊かな人生となるための人間力を育む）に基づく教育法リトミックの指導に携わる一員として精進するとともに、今後も様々な視点から研究を深めていきたい。

～謝辞～

本研究にあたり「親子でリトミック」にご参加及びアンケートにご協力いただきました方々に深く感謝申し上げます。

参考文献

- ・花原幹夫、『保育内容 表現』（株）北大路書房、2005年
- ・神原雅之、伊藤仁美、『保育ではじめてリトミック』（株）チャイルド本社、2021年
- ・エミール・ジャック＝ダルクローズ著、板野平訳『リズムと音楽と教育』全音楽譜出版社、1975年

脚注

-
- ^I エミール・ジャック＝ダルクローズ著、板野平訳 ダルクローズ・リトミック教則本『リズム運動』全音楽譜出版社、1970年、著者の略歴
 - ^{II} 渡辺厚美、岡崎裕美、『音楽表現』（株）一藝社、2018年、p.17～19
 - ^{III} 須藤鶴子、『幼児の表現を育てる』（株）文化書房博文社、1999年、序文
 - ^{IV} 井口太、『最新・幼児の音楽教育』朝日出版社、2020年、p.70
 - ^V 井口太、前掲書、p.69

八戸学院大学短期大学部幼児保育学科 講師

橋本知子